

# 各地の反核医師の会の活動紹介

## 愛知 核戦争に反対する愛知医師の会

核戦争に反対する医師の会は、イラクから来日したジャワード・アル・アリ(バスラ教育病院病センター長)とジャナ・ハサン(バスラ母子病院)両医師を招き、八月十一日(月)夜、イラク人医師と語り合う会を開催した。

会場の保険医協会伏見会議室には、医師・歯科医師のほか市民ら百五十人が詰めかけ会場は満員。二人の医師がスクリーンに映して解説するイラクの子どもの多くは、また治療の現場では、経済制裁のため薬の入手が困難なこと、化学兵器の製造禁止を口実に「化学療法」に必要な薬剤までが輸入規制されているなどにより、まともな治療が行われれば助かる患者が次つぎ死亡している実態を報告した。

今回のイラク戦争でも大量の劣化ウラン弾が使用されている。それでも影響を認めないアメリカへの怒りと、今後の健康被害を危惧する声会場から出された。

今回の両医師の来日にあたって、名古屋の愛



ジャワード・アル・アリ(バスラ教育病院病センター長)「写真右」とジャナ・ハサン(バスラ母子病院)「写真左」両医師

## 和歌山 核戦争防止和歌山県医師の会



池田香代子さん

核戦争防止和歌山県医師の会では、非核団体と複数、自治体への申し入れ・懇談、全自治体の非核宣言集の作成、学習会や映画上映(ヒバクシヤ)などの取り組みをすすめてきた。この七月十一日(土)には、第五回総会を開き、翻訳家の池田香代子さんを講師に平和講演会を行った。その講演内容を少し紹介する。

「世界がもし百人の村だったら」の再話での独自性、特に最後のページを付け加えたのが、良かったと言われます。「もしもたたくさんの私たちがこの村を愛することを知ったらならまだ間に合います...この村を救えます」と。

「百人村」への反応は、



「百人村」再話出版活動から、日本国内の難民支援や、世界的なNGO等の住民運動支援等能動的な援助活動にまで発展している。

## 石川 核戦争を防止する石川医師の会

イラク、アメリカ、そして日本。世界のヒバクシヤたち取材したドキュメンタリー映画「ヒバクシヤ 世界の終わりに」の金沢上映会が十月四日に計画されています。この映画は映像作家の鎌仲ひとみさん(富山県氷見市出身)が今春製作したもので、すでに全国各地一〇ヶ所以上で上映会が開かれており、十一月に沖縄で開かれる「第十四回反核医師・医学者の集い」でも上映されます。

監督の鎌仲さんは、「広島、長崎に原爆が投下されて五十七年たっても、戦争や核開発核実験のため、イラクや米国はじめ世界中でヒバクシヤは増え続けている。もう傍観しているときでない。自分としての問題として、核の悲惨さを経験した日本、自分で何ができるかをぜひ考えてほしい」と話しています。

月刊保国連「八月号」に「ハンフォード原爆工場風下地区のヒバクシヤを訪ねて」を寄

雪だるま2号キャンペーンへご協力をお願いします。

反核医師の会のみなさま  
「チエルノブイリ支援運動・九州」では、チエルノブイリ事故被災者医療支援のための検診車「雪だるま2号」をベラルーシへ贈るキャンペーンを行っています。これは現在現地で活躍している「雪だるま号」の老朽化に伴うものです。近年、主に思春期にあたる人々の間で甲状腺ガンの発症は急増しており、日本などでの関心が薄れていく一方で、現地での深刻さや支援の必要性はまったく衰えていません。新しい検診車の導入は、現地で自立した医療活動をさせるための大きな鍵となります。

活動を通して個人も大いに成長されている、一人の力から世界が変わってきている。講演は(美)

しかし検診車購入のためのカンパは、現在非常に苦しい状態にあります。ぜひ皆様方にもカンパへのご協力を頂ければ幸いです。(郵便振込口座 01770 1 65328「チエルノブイリ支援運動・九州」雪だるま2号カンパ)と(記入下さい)

その他、必要な情報、資料、チラシなどは「チエルノブイリ支援運動・九州」までお問い合わせ下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

【連絡先】  
〒807-0052福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム  
TEL:093-2000-65282  
E-mail:imu@tago.io  
http://www.ch91.io

# 核戦争に反対し核兵器廃絶を求める 医師・医学者のつどい ニュース

第25号(復刊2号)

2003年9月30日

核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい事務局  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内  
電話03(3375)5121 FAX 03(3375)862  
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp  
http://www1.doc-net.or.jp/~no\_nukes/

実行委員長 武居 洋

今年第十四回「集い」は沖縄で開催されることになりました。

国内外の情勢は昨年の第十三回の松山での「集い」以降、大きく変わりつ

つあります。国際的には米国のブッシュ政権に代わり、また二〇〇一年の9・11同時多発テロ以降、米国の外交政策や核動主義が顕著となり、NPR(核態勢見直し)に

に巻き込んだ原子爆弾の投下は、平成八年の国際司法裁判所からの国連総会への勧告を待つまでもなく、人間の尊厳に対する、国際法違反のどんな理屈をつけても許されな

い。今こそヒバクの実相を全てヒバクシヤが語るように、みんなで支援する時だ。一定の障害がある人に支給される月々三万四千三百三十円の健康管理手当の受給者は全

広島・長崎への原爆投下から五十八年目の夏が巡ってきた。どこまでも青い空に現れた、機体のB29によって投下された原子爆弾によって形勢がたいせん光がかった。日本で一番長かったあの日を忘れるなど誓い日が続いていく。母のまごころのこもった弁当を食べるのを楽しみにしていた少年、折り鶴を折りながら原爆症による白血病からの回復を願った少女、焼けただれた皮膚をさら下げて水を求めた太田川に飛び込んだ人々、爆心地から一キロメートルの地点でも秒速百五十メートルの猛烈な爆風、屋根

瓦も溶ける千八百度の猛烈な熱線、現代最高の医学をもっても救つことのできなかった東海村の臨界事故で大内さんがあひた千七百メートルを越える放射線が一瞬に放出された。

広島市では、三十三万六千六百七十一人が亡くなり、死亡率は七十九・七%とされている。まじに生き残った方々は奇跡である。非戦闘員を大量に地獄

い悪である。戦争の一番の被害者は少年少女だった。当時は少年少女だったヒバクシヤの高齢化が進んでいる。ヒバクシヤの中にはヒバクの事実を明らかにできない人も多

申請しても、因果関係が明らかでないとして三年も五年も認定されず不許可になる方が大勢おられる。原子爆弾被害者の援護に関する法律の精神から言えば全員が認定されるべきだ。

九月十四日「原爆症認定を求めざる支援ネットワーク」兵庫 結成のついでに開催された、全国でも、長崎、愛知、北海道、東京、大阪、千葉、茨城の住民から同様の提訴が行われている。この裁判の目的は、国に対して原爆症を正當に認定し、医療の給付を行うべきことを求め、この裁判によつて国すなわち厚生労働大臣の原爆症認定行政がでたらめ、かつ誤っていることを明らかにし、原告が身をもつて被爆の実態を示すことにより、人類は絶対に核兵器をもつべきでないことを訴えることにある。

湾岸戦争やアフガニスタンやイラク戦争で劣化ウラン弾が使用されヒバクシヤは世界に広がっている。原子爆弾が再び使用される危険が高まっている。今こそ、ヒバクシヤを二度と作らない取り組みへの参加と支援が求められている。

「集い」常任世話人 池内春樹( )

第三分科会では「平和教育の実践」と題してこのような平和教育の蓄積が報告されます。また「医療と平和」についても問題提起がなされる予定です。

いまヒロシマ・ナガサキの被爆者は、高齢化し、何となく生きてる間にこれ以上の戦争や核兵器の使用を止めるよう、また自分達の犠牲が最後であつて欲しいと願いつつ、原爆症認定集団訴訟に踏み切っています。被爆者は何故立ち上がったか、集団訴訟の意義は、などについて第二分科会で報告される予定です。

今年の「集い」では命の大切さ(命と宝)をキーワードに、みんなで核・基地・戦争を語り合おう(かたやびら)ではありませぬ。

**開催要項**

会場 パシフィックホテル沖縄  
参加費 医師・歯科医師・医学者5,000円、他医療関係者2,000円、学生・一般1,000円 レセプション代別途7,000円

**第1日目・11月1日(土)**  
13:00~ 開場(受付開始)  
13:20~ ドキュメンタリー映画「ヒバクシヤ 世界の終わりに」  
15:30~ 全体会議(記念講演、基調報告など)  
記念講演「フッシュドクトリンで世界はどうなるか」ダグラス・ラミス(元米海兵隊員、政治学者)  
19:00~ レセプション

**第2日目・11月2日(日)**  
9:00~ 分科会  
第1分科会 核軍事基地沖縄と有事法制(新垣勉・弁護士、沖縄県平和委員会事務局長) 核軍事基地沖縄と有事法制(大城保英、沖縄県反核医師の会世話人) 名護市への新基地建設をめぐって(宮城康博・名護市議)  
第2分科会 原爆症認定集団訴訟をかちとろう(被爆者はなぜ立ち上がったか(山田拓民・長崎原爆被災者協議会事務局長) 集団訴訟を支える(山下兼彦・長崎県保険医協会副会長) 集団訴訟の意義(宮原哲朗・弁護士)  
第3分科会 平和教育の実践(核の科学の教育(琉球大学・核の科学教材研究会) 沖縄戦の体験と平和教育(石原昌家・沖国大教授) 医療と平和はどうか結びつくか(西銘主蔵・沖縄県反核医師の会世話人) 12:00~ 全体会議(12:50 終了予定)  
14:00~18:00 オプション(参加費実費) ホテル発-キャンパ-キンザー(車窓)-嘉数高台公園(普天間基地)安保のみえ丘(嘉手納基地)-道の駅「かてな」-那覇IC-那覇空港-ホテル着

**第14回「集い」成功のための募金にご協力をお願いします。**  
【募金振込先】りそな銀行 新宿西口支店 普通預金口座03380777  
郵便振替 口座番号 00170 7 56764 加入者名「反核医師・医学者のつどい」





1日目 老人病院にて

# 「軍隊を捨てた国」コスタリカを訪問

## 反核医師・医学者のつどいが「平和と交流の旅8日間」を実施

「反核医師・医学者のつどい」は、8月10日から17日までの日程で、「平和と交流の旅、コスタリカツアー8日間」を実施。医師、歯科医師、被爆者など総勢37名が参加し、中米の国コスタリカを訪問した。詳細については別途報告集を作成する予定であるが、参加した世話より投稿をいただいたので紹介する。



### 「コスタリカ・ツアー」を終えて

「反核医師・医学者のつどい」主催のコスタリカツアー(八月十日～十七日)に全国から三十七名(ガイド等三名を含む)が参加。ヒューストン空港で十二名が予定の飛行機に乗れず一日遅れでコスタリカ入りするなど多少のトラブルもあつたが、貴重な成果と思いつた。出を胸に全員無事に帰国した。

「軍隊のない国」として知られるコスタリカは、一人当たりGDPが日本の約九分の一の発展途上国である。にもかかわらず、コスタリカでは高い医療・保健水準を持ちながら、文字通り、誰でもいつでも、お金の心配なしにかかれる医療が実現されていた。

コスタリカの医療は三段階に分けられ、三番目を国立の三総合病院と五専門病院が担っている。今回、その中の老人病院小児病院、リハビリセンターの三専門病院を訪問した。病室は六人部屋、建物の多くは狭く、美しいとはいえない。老人病院は昔の結核病院を母体とし増改築を重ねられている。老人が診察を受けるのに幾度も階段を上しなければならぬなど問題も多い。これは全て、乏しい財源で、誰もが何時でも平等に利用できることを最優先した、やむを得ない結果なのだ。この基本姿勢が貫かれていることを、その後にもいたるところで知らされた。入院中の老人たちの表情が皆さがる明るいことも印象的であった。じつと下を向いている人、壁を見つめている



2日目 社会保障公庫の医師から医療制度の概要について説明を受ける

脆弱な米国や日本あまりにも対照的なコスタリカ。この国のことをもっと知りたいと思いつながら帰国の途についた。

現在、詳細な報告集の

### 国立小児病院の視察 医療へのアクセスは基本的人権

テロ警戒の影響で、ヒューストン一泊を余儀なくされたため、二日目午前の老人病院見学は、参加できませんでした。午後的小児病院見学から合流したため、そこからの報告になります。国内に九百力所のクリニックがあり、その診療範囲を超える患者、入院の必要な患者は、第二段階の病院での診療を受け、さらにその上のレベルの診療を行うところとして国立小児病院が一所あり、かなりセレクトされないも受診できないように入られるキヤパシテイーは持っている。入院の平均が三日、ちょっと信じられない数字で、聞き直してもその通りという。救急関係の病棟だけではないかとも思いますが、確認するに時間はなかった。ただ、診断・治療方針がはっきりしたら、第二レベルの病院へ転院させるといふ機能分化がしっかりと行っている。そのような数字がでるのももれなく、

### モンテベルデ自然保護区探訪

コスタリカ三日目は、モンテベルデ自然保護区へのバスの旅。途中の下り道の沿道には、あちこちに特産のコーヒー畑、もう少し大きな木を想像していたが、日本の茶畑を少し大きくした程度。畑は、適度な日陰をつくるため、高めの木が点々と植えられている。ハイウェイを折れて登りに入ると道は狭く、なっている。でも、三分の一くらいは何とかアスファルトで舗装されているが、その先は……。なんでも、道を改修すると観光客が多くなりすぎる。と地元が反対し、改修ができないのだそう。両側に広がる山麓は、急な斜面に至るまで、草地になつており、牛や馬などが放牧され、谷の向こうにまで広がっている。ガイドの足立さんによれば、牧場を作るために森林を大規模に伐採したこと、保水能力が減少するなど深刻な環境問題が発生させているという。五、十一月までが雨季のことで、今年のはわれわれが来るまでは雨が少なかったとのこと。

### IPPNWコスタリカ支部との懇談

人口約四百三十万人のコスタリカ(スペイン語で富める海岸の意味)共和国は、一九四八年に平和憲法により軍隊を放棄し、一九八三年に永久的非武装中立政策を宣言した。平和を重視し、内戦の続く周辺諸国の安定化と民主化の促進に積極的に努力している。もと大統領のオスカル・アリアス氏は世界的にその貢献が認められて、ノーベル平和賞を受賞している。軍隊を持たない結果、国家予算の三〇%を文教費とし、保険の加入の有無、国籍などにかかわらず、だれでも医療を受ける権利が法的に保障されている。



4日目 自然保護区にて

登るほどに道が狭くなり、穴ぼこでバスは大きくゆれ続け、谷側は深い落ち込、大型バスで来たことに若干の後悔を感じた。四時間ほどで、モンテベルデ到着。モンテベルデとは、「緑の山」とのこと。そのまんなの名前。この地域は、朝鮮戦争への徴兵に不服従で六ヶ月の投獄生活を送ったクエーカー教徒が、子孫を戦争に巻き込まないために、「軍隊のいない国・コスタリカ」目指して数千キロを旅して入植したという。そして所有する土地の三分の一は保護することを決め、貴重な鳥や虫、植物が生息する森林が「自然保護区」として保全されたのである。しかし、すでに「黄金の蛙」など何種類かの貴重な動物が失われたという。

### 山上誠志(大阪)

戦前に移民地のチリで生まれ、その後強制送還された長崎で被爆された熊本泉被団協事務局長の中山高光氏がご夫人とともにいられた。中山氏はツアー前に被爆実態の写真を強く願っていただいた。郵送ルートが確認できず、思いがとげられなかったことを残念がっておられた。スロン会長は当支部が核戦争反対、あらゆる核兵器廃絶に確かな行動をとりながらも、広島・長崎の被爆の詳細な実態に詳しいことを指摘し映画監督スチューン・スバルグがホロコーストの犠牲者を繰り返す人びとに思い起こさせたいように、原爆の死者や被爆者のことを忘れてはならないと提起し続けられていくことを知った。

中には、つるを何メートルもたらして、地面にまで届かせ、水分などを得ているものもある。木がまばらになれば、光を好む植物が育っている。そうとした森林で、日本では見られない様相であった。環境汚染の指標となる、透けて見える葉のシダ、葉の長さが二三メートルで茎の高さが数メートルにもなるシダ類、また一本の木に数十種類の植物が着生している。寄生でも共生でもなく、着生で、お互いには依存関係がないとの事。確かに、これだけ雨があれば十分に水分は補給できるし、問題はないのである。谷にかかるつり橋の上から、樹木を見おろしたり、目の先すぐに見えるという趣向もあり、よく見れば「ラン」のさまざまな種類が木に「着生」している。またそれ以外にも、いろんな花が咲いている。説明によれば、こうした花に溜まった水の中に卵を産むカエルがいて、おたまじやくしからカエルになるまで花の中で生活するといふ。花の蜜を吸うハチドリも多種類で、くちばしが花の形に合わせて蜜を吸いやすいような形になっている。着生植物の

### 中川武夫(愛知)

自然保護区の出口に近づくと、なぜか日が差してきた。